

# 「ひと咲き まち咲き あまがさき」に向けて


～尼崎人口ビジョン、尼崎版総合戦略から～

平成28年5月18日

尼崎市 ひと咲きまち咲き推進部 政策課

# 尼崎市人口ビジョンから見えること

- (1) 人口は40年間減少しているが収束しつつある
- (2) 少子化、高齢単身化が課題  
社会減をとめるだけでは人口は増に転じない（自然増が鍵を握る）  
単身高齢者が近隣市と比較して多い（住みやすいまち？）
- (3) とはいえ、ファミリー層の転出超過には理由があり、その対策が必要  
マナー、治安、教育、環境に対するイメージ・不安の払拭



## 総合戦略 3つの基本目標

ファミリー世帯の定住・転入を促進する

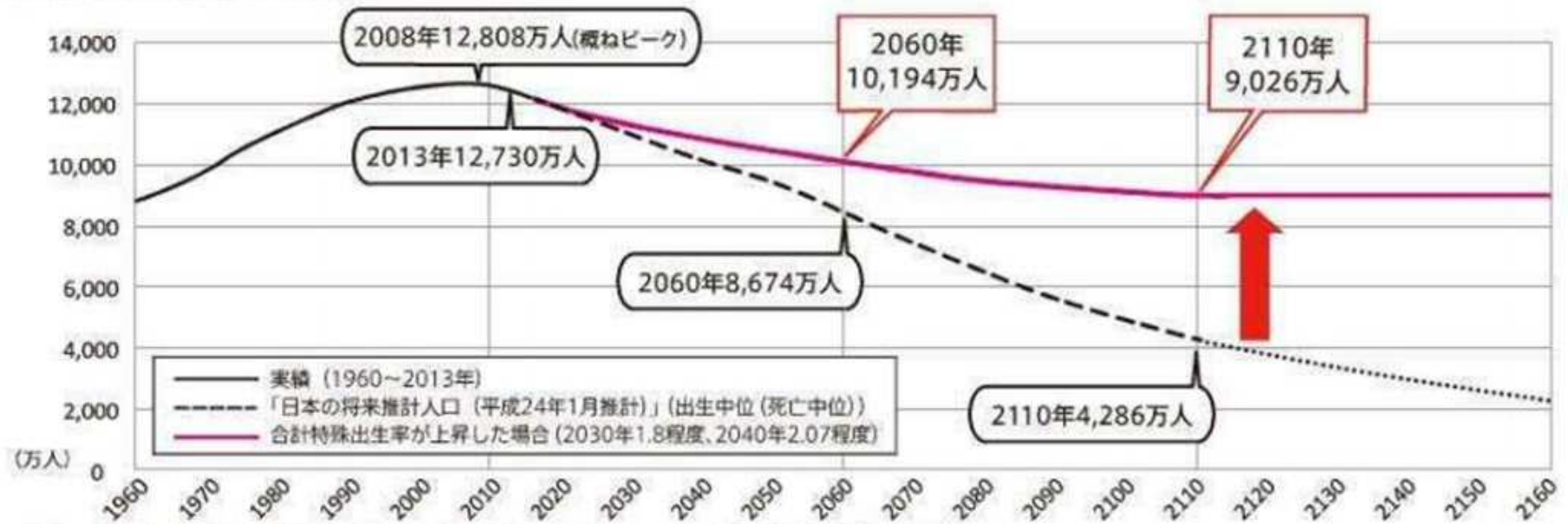
経済の好循環と「しごと」の安定を目指す

超高齢社会における安心な暮らしを確保する

# 日本の人口は？

2008年の1億3千万人をピークに減少  
2060年には87百万人に  
2110年には43百万人に

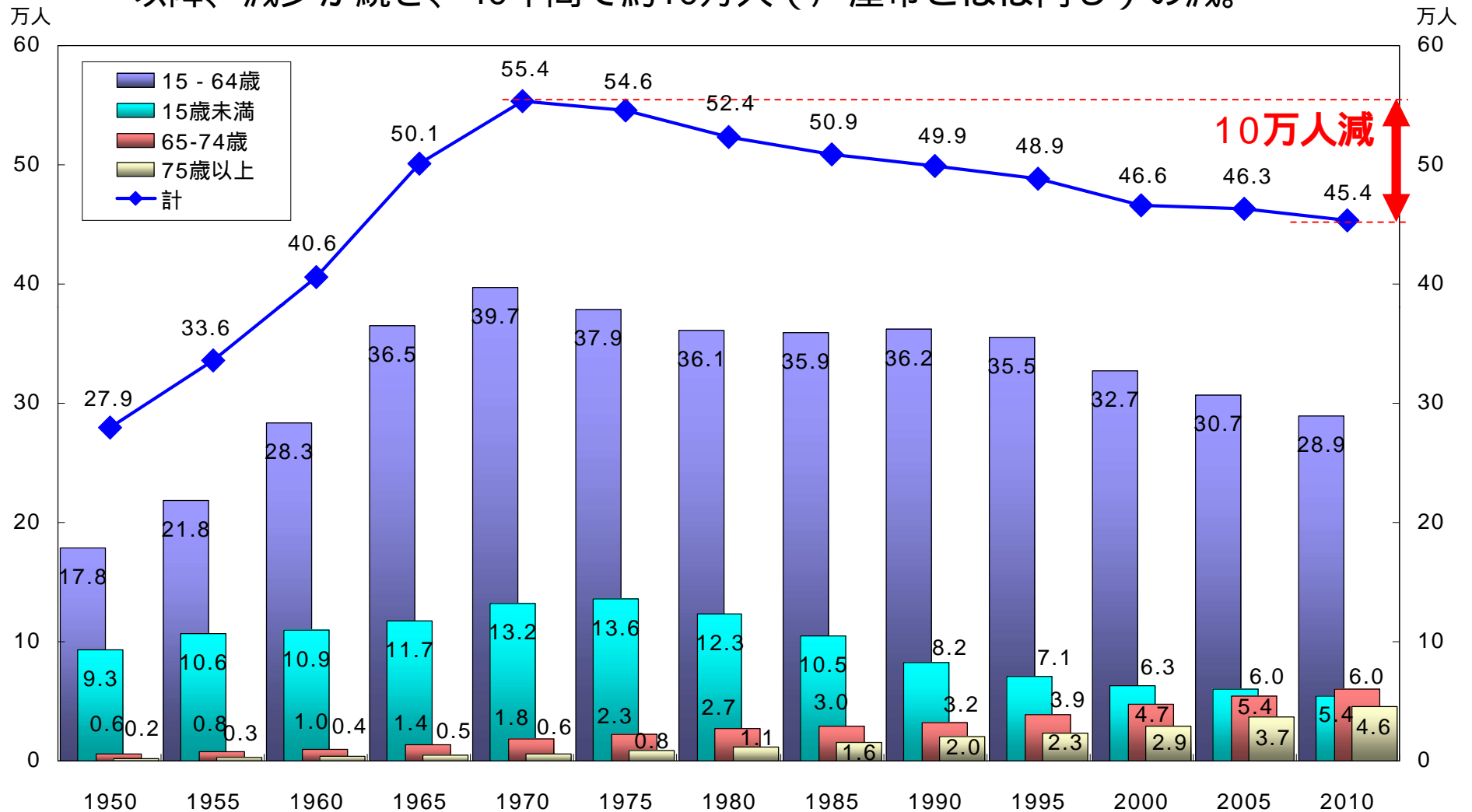
我が国の人口の推移と長期的な見通し



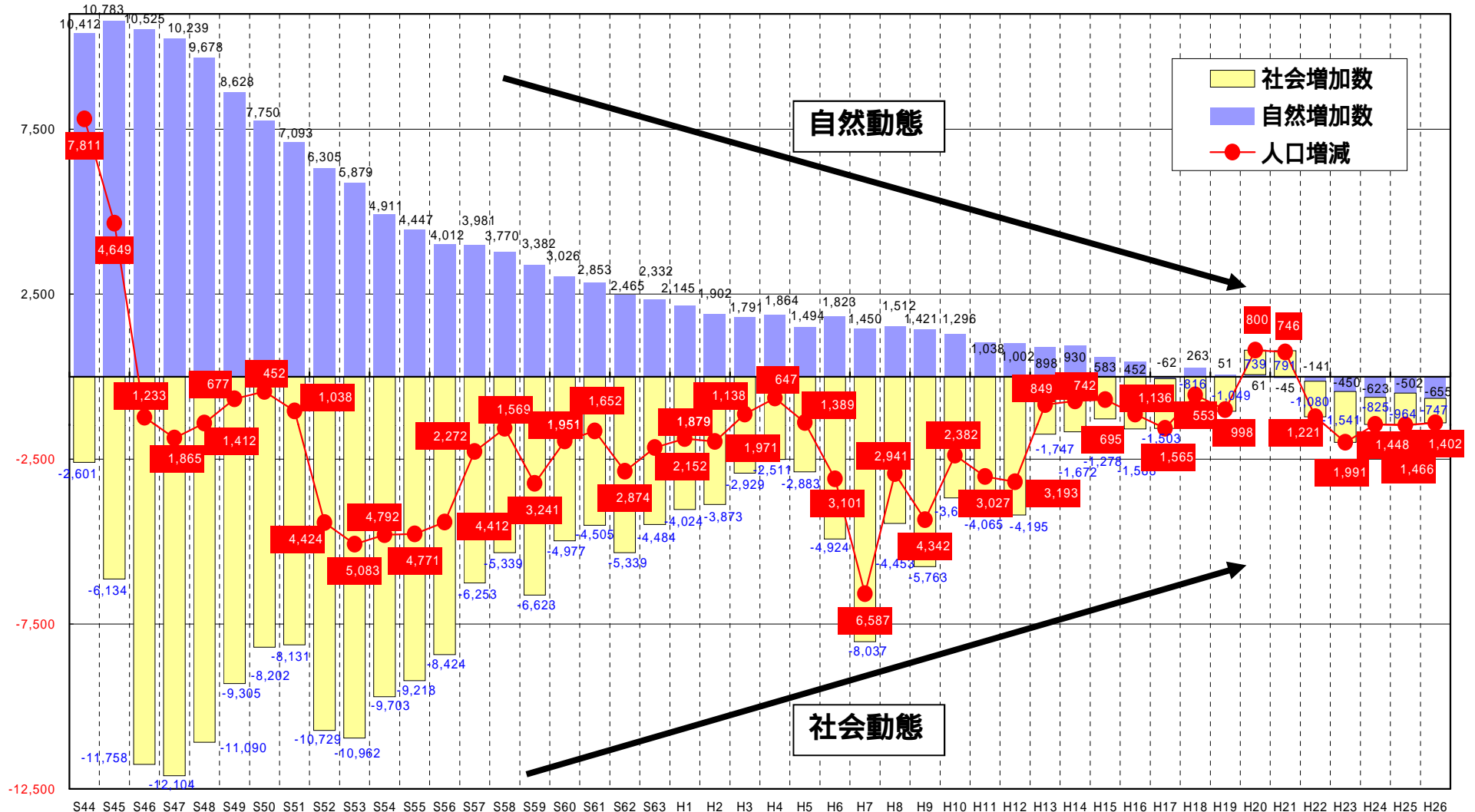
(出典) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」(出生中位(死亡中位))

# 総人口の推移

- ・ 昭和30（1955）年頃から急増、昭和45（1970）年ピーク（国勢調査）
- ・ 以降、減少が続き、40年間で約10万人（芦屋市とほぼ同じ）の減。



# 昭和44年以降の本市の人口動態



H17年以降は自然減が人口減少に追討ち。

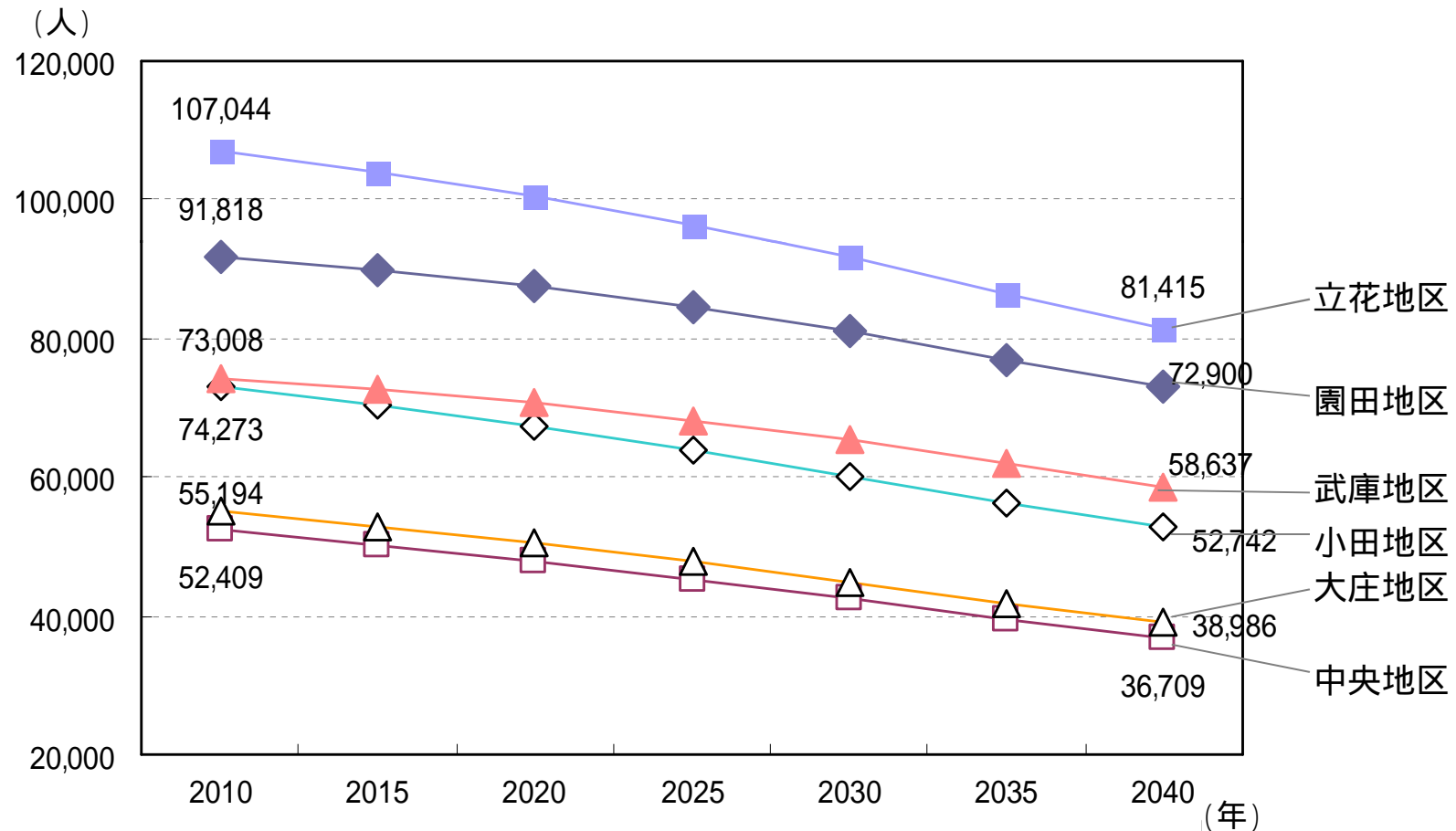
人口月報より

社会減はH13年以降は 1千人台以下 (H20・21年は社会増) と  
低く推移



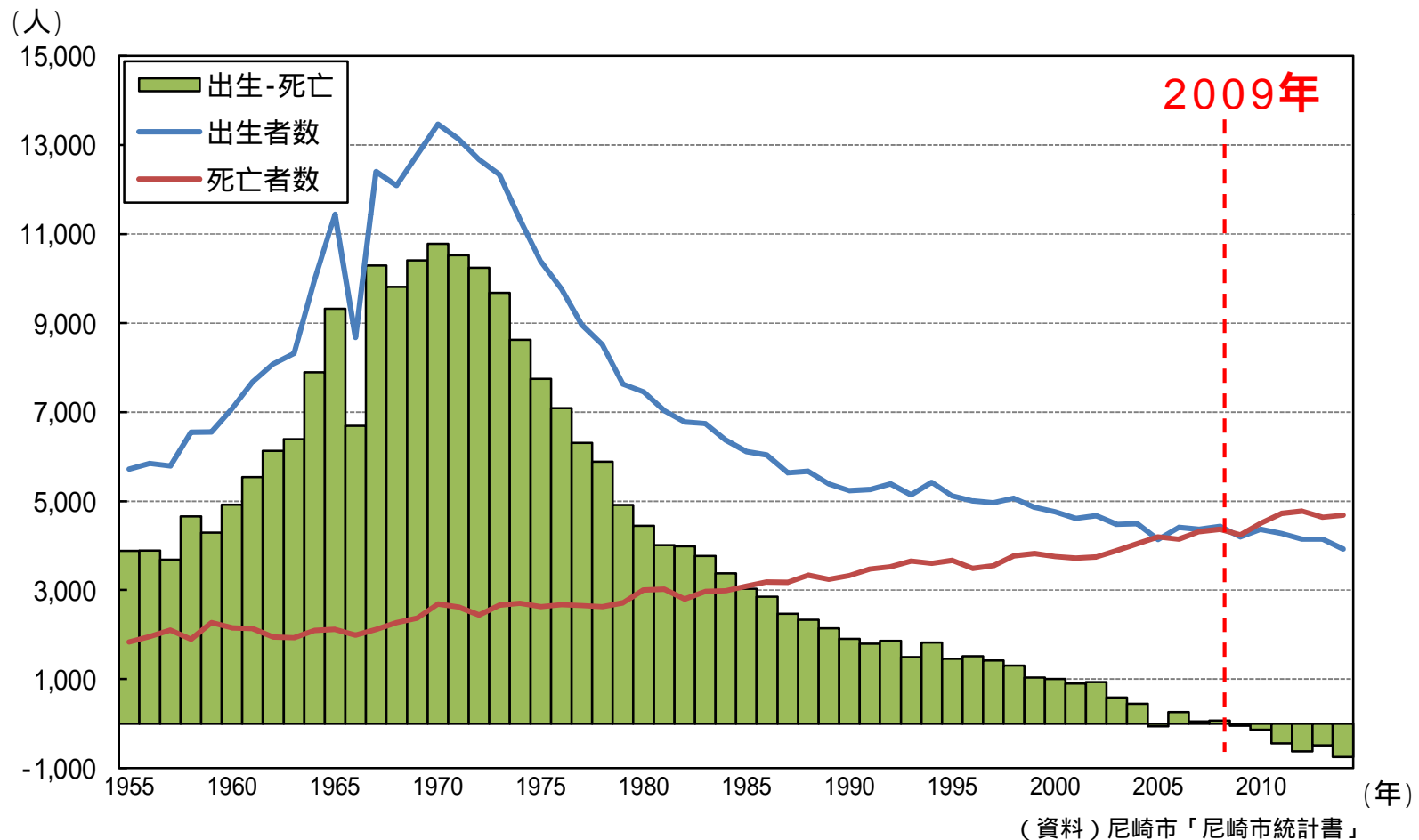
# 地区別人口の将来推計

- ・ いずれの地区も微減傾向
- ・ 年齢が若いほど人数が少なくなる傾向が顕著。コミュニティの形成に懸念



# 自然増減（出生者数－死亡者数）

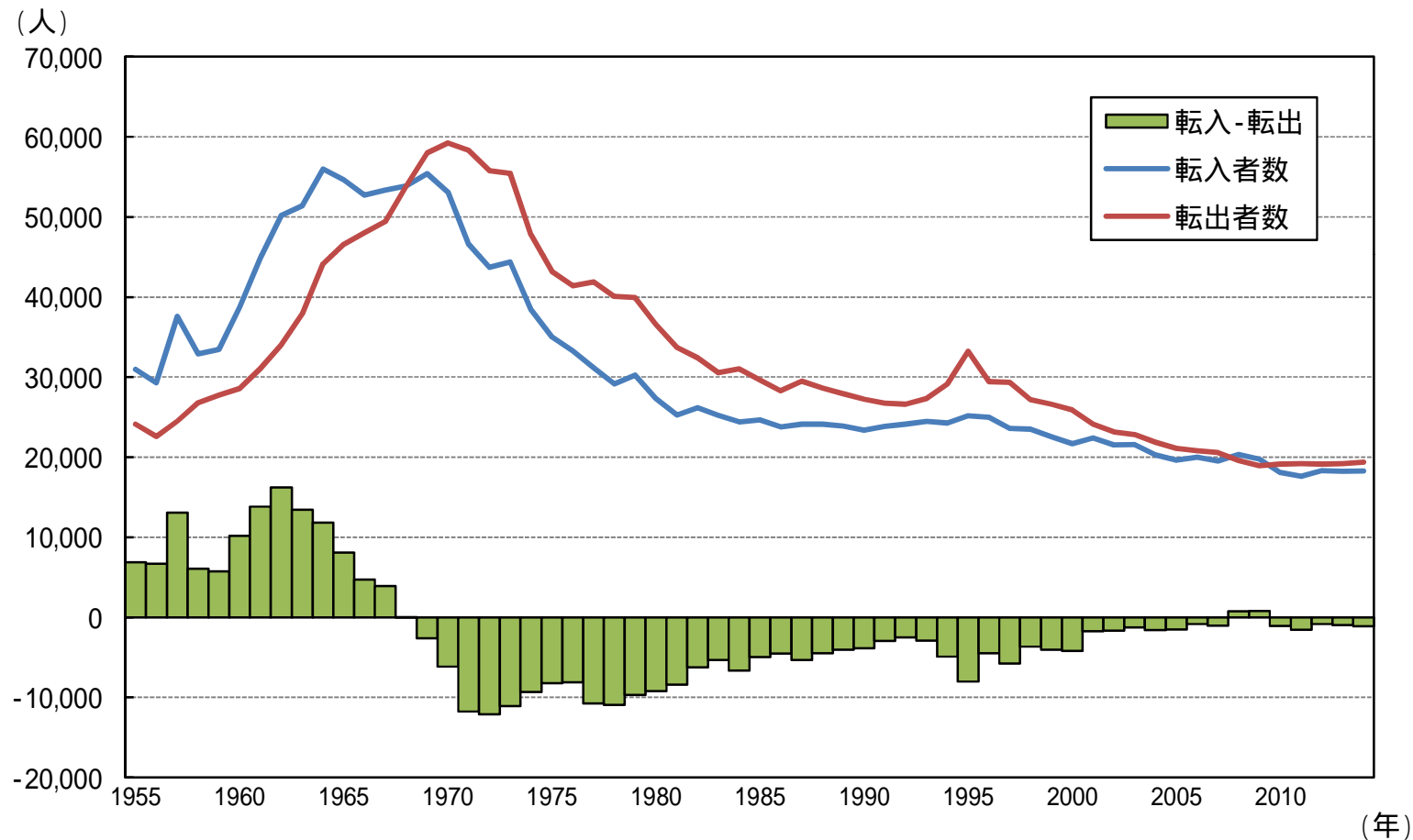
- ・ 2009年以降、死亡が出生を上回る。
- ・ 今後出生数は、団塊ジュニア世代が40歳代を迎え、大幅な減少が見込まれます。





# 社会増減（転入者数－転出者数）

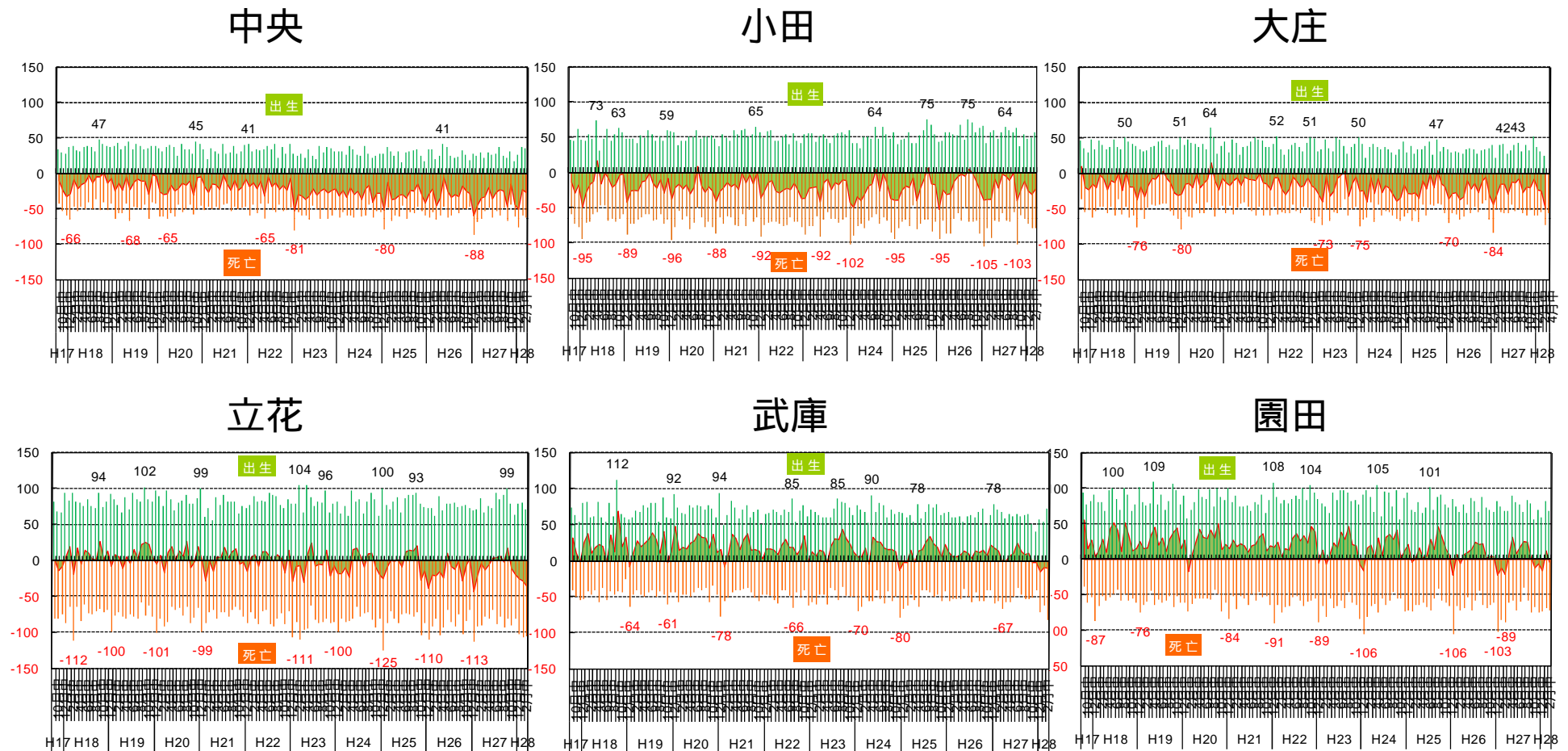
- ・ 1960年台までは転入超過だったものが、1970年台には年間1万人にもおよぶ大幅な社会減少が続いた。
- ・ 近年、減少幅は縮小しているものの、転出超過傾向が続く。



(資料) 尼崎市「尼崎市統計書」

# 地区別自然増減（H17以降）

- ・ 南部3地区は出生数が少なく、圧倒的に自然減
- ・ 北部は武庫、園田が自然増ながら立花はH23以降、減に転じた

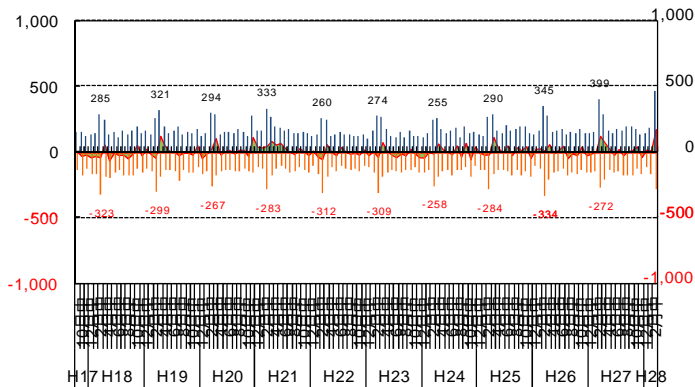


(資料) 尼崎市「人口月報」から

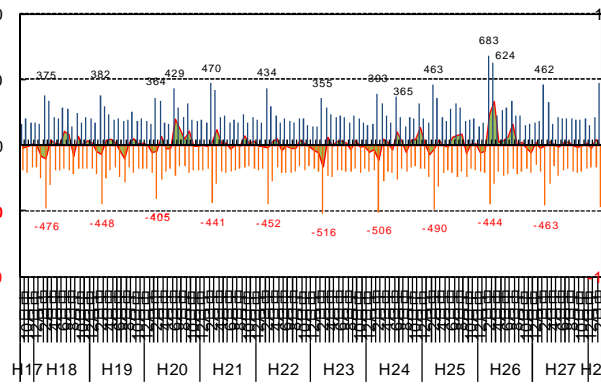
# 地区別社会増減（H17以降）

- ・中央・小田のみトータルで社会増。その他はすべて社会減。
- ・北部は転入・転出が南部に比べて多いが、立花は21のみ社会増、武庫は一環して減少、園田は20、21は社会増。

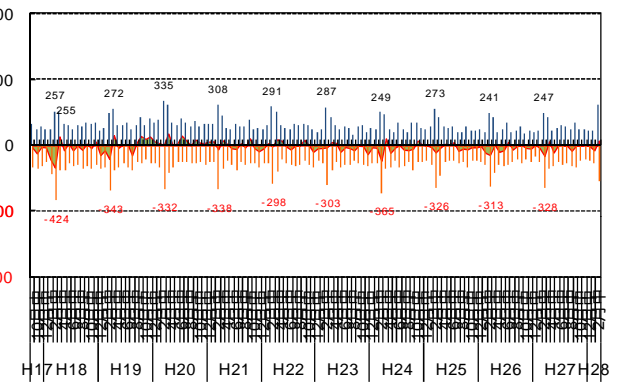
中央



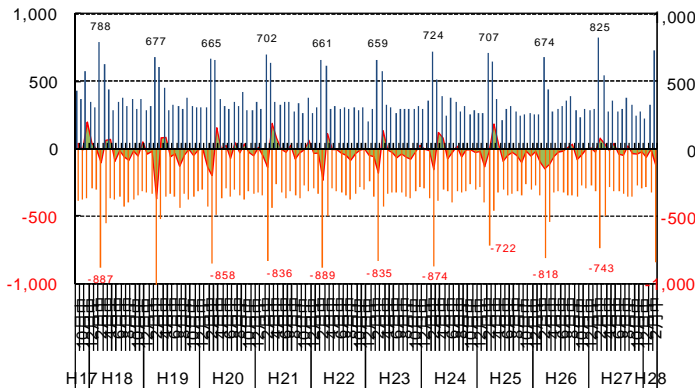
小田



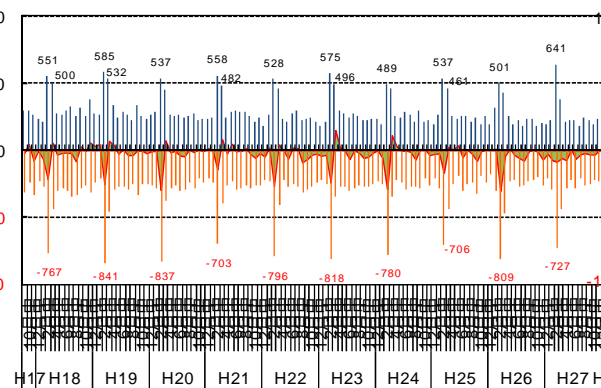
大庄



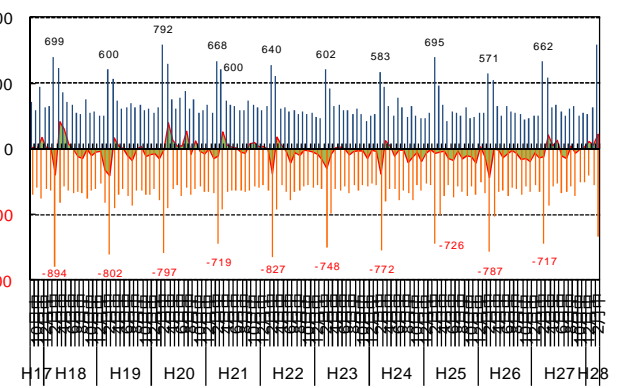
立花



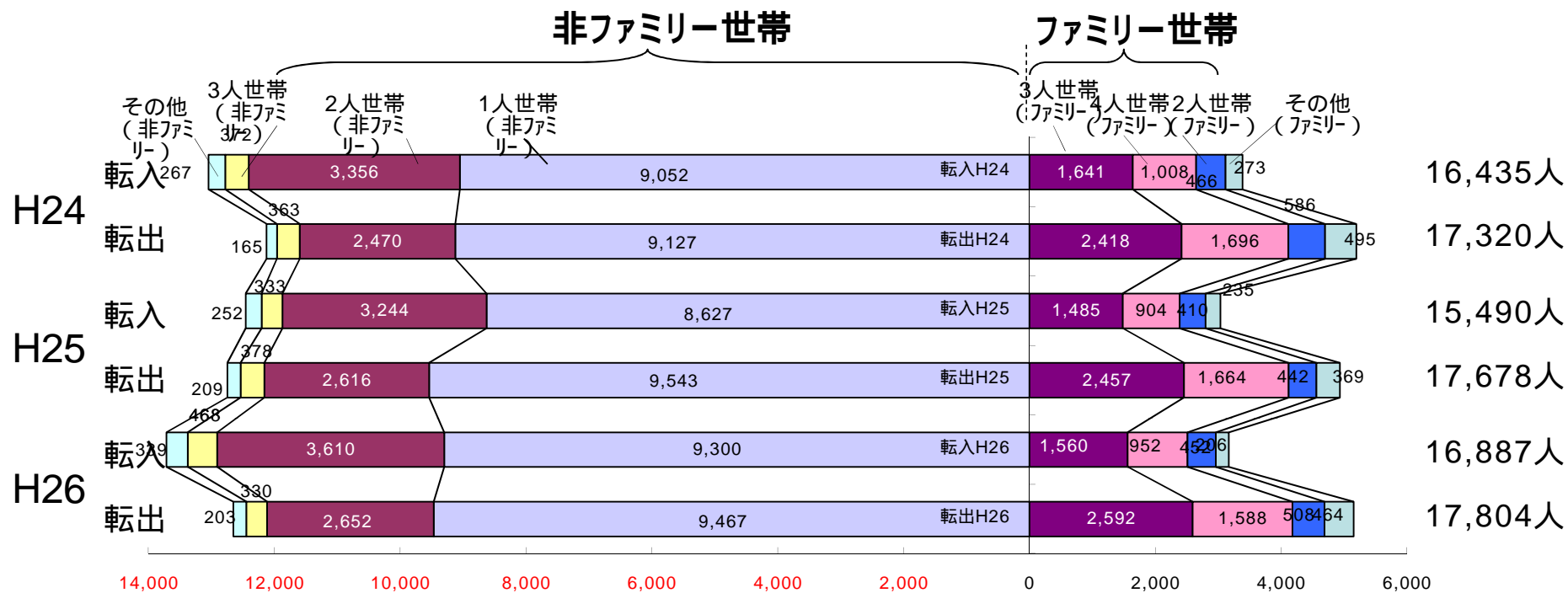
武庫



園田



# 過去3カ年の家族形態比較（人数）



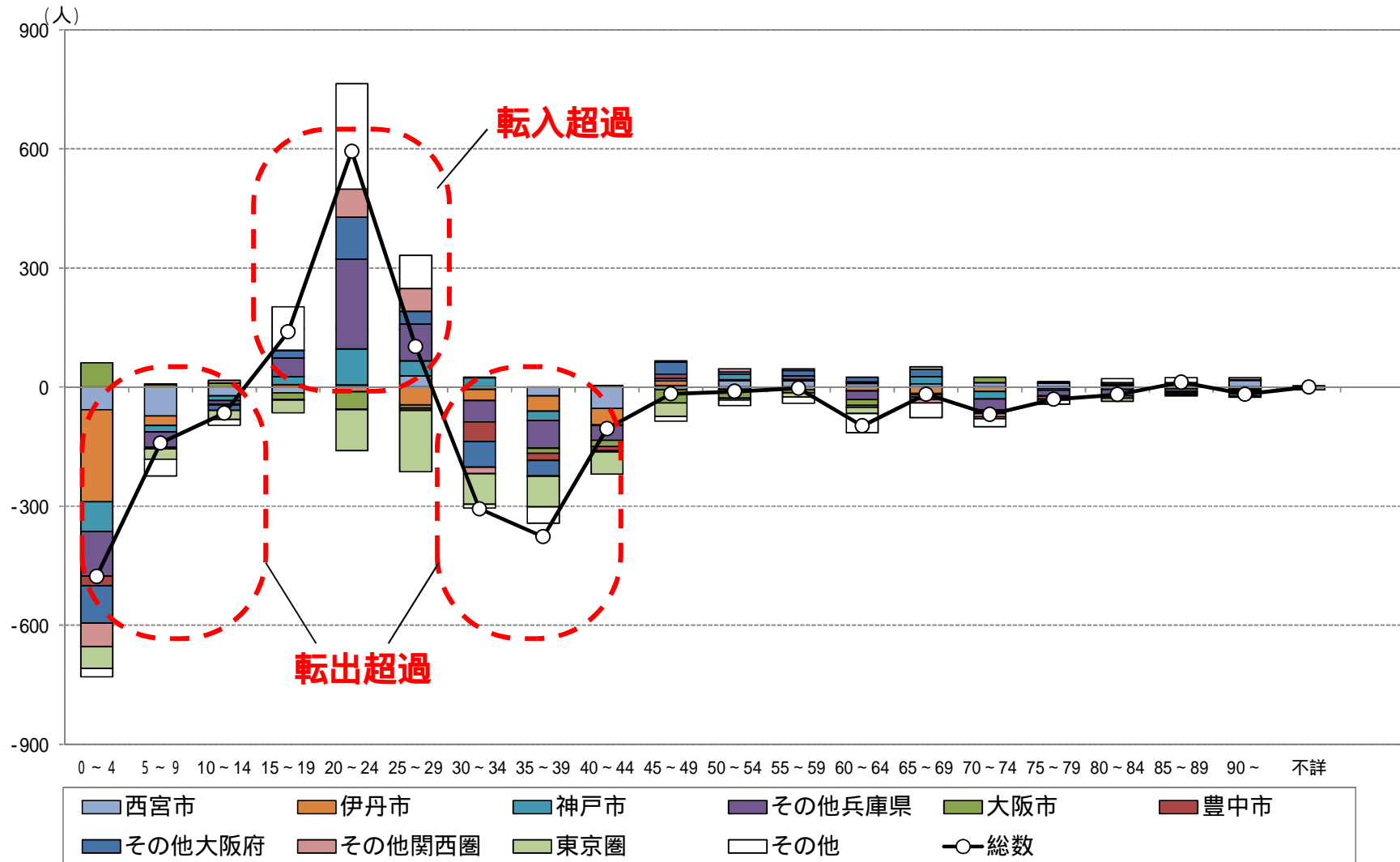
(資料) 尼崎市「住民基本台帳」から  
ファミリー世帯...中学生以下の子どもがいる世帯

## 最も移動が多い類型は単身者

- 2人世帯では転入 > 転出（約千人）も、ファミリー世帯では転出 > 転入（約2千人）

# 年齢5歳階級別純移動数

- ・20歳代前半が大幅に転入超過、0～4歳と30歳代が大幅に転出超過
- ・「子育て世帯」が西宮市や伊丹市などの近隣市に大幅に転出超過

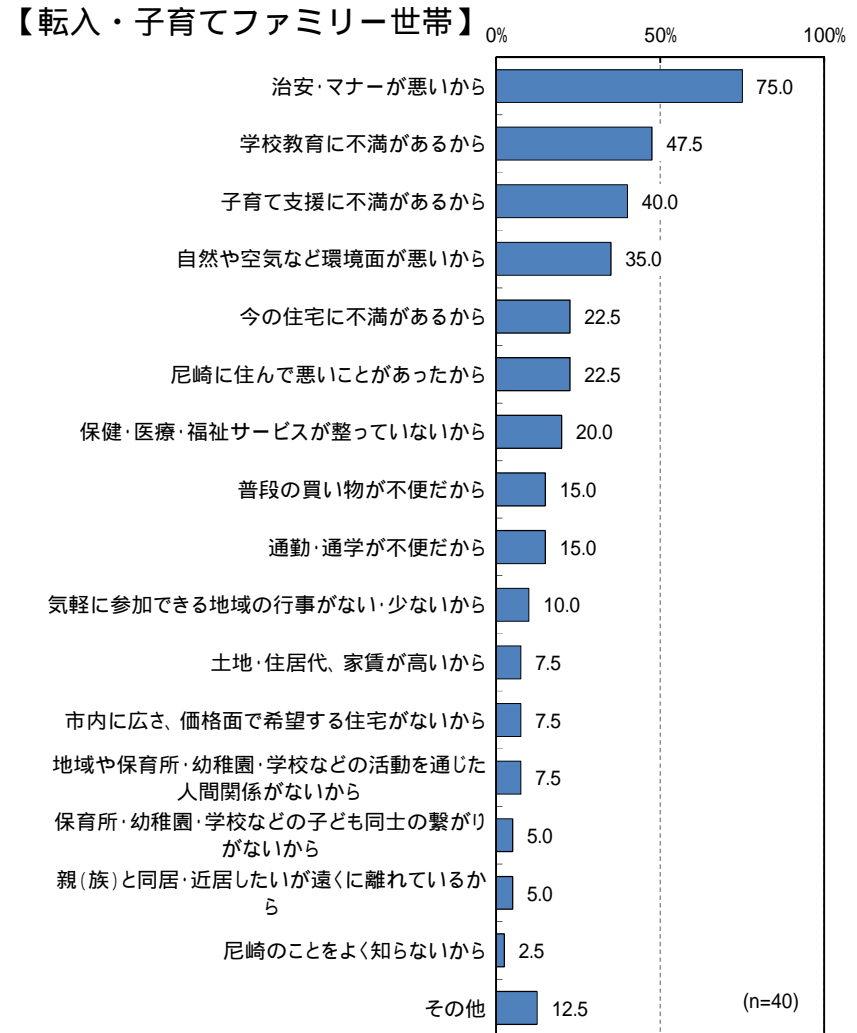
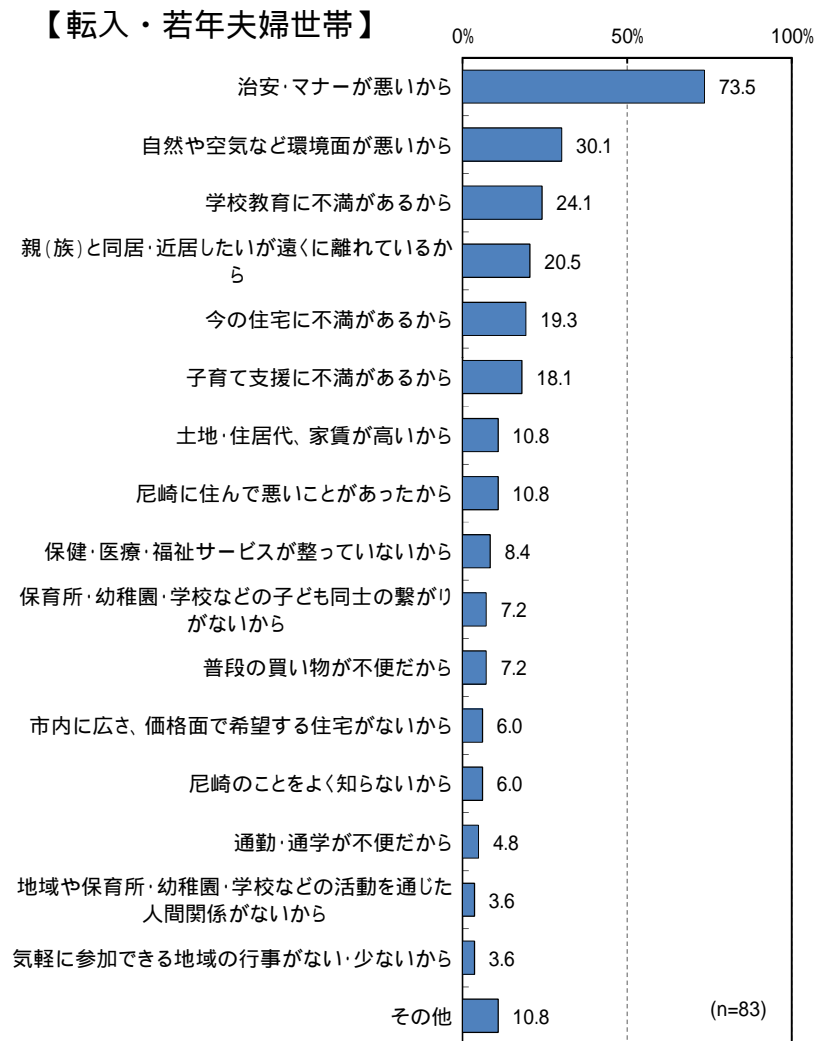


(資料) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」

# 市外に移りたい理由 (市外に移りたいと回答した人の理由)

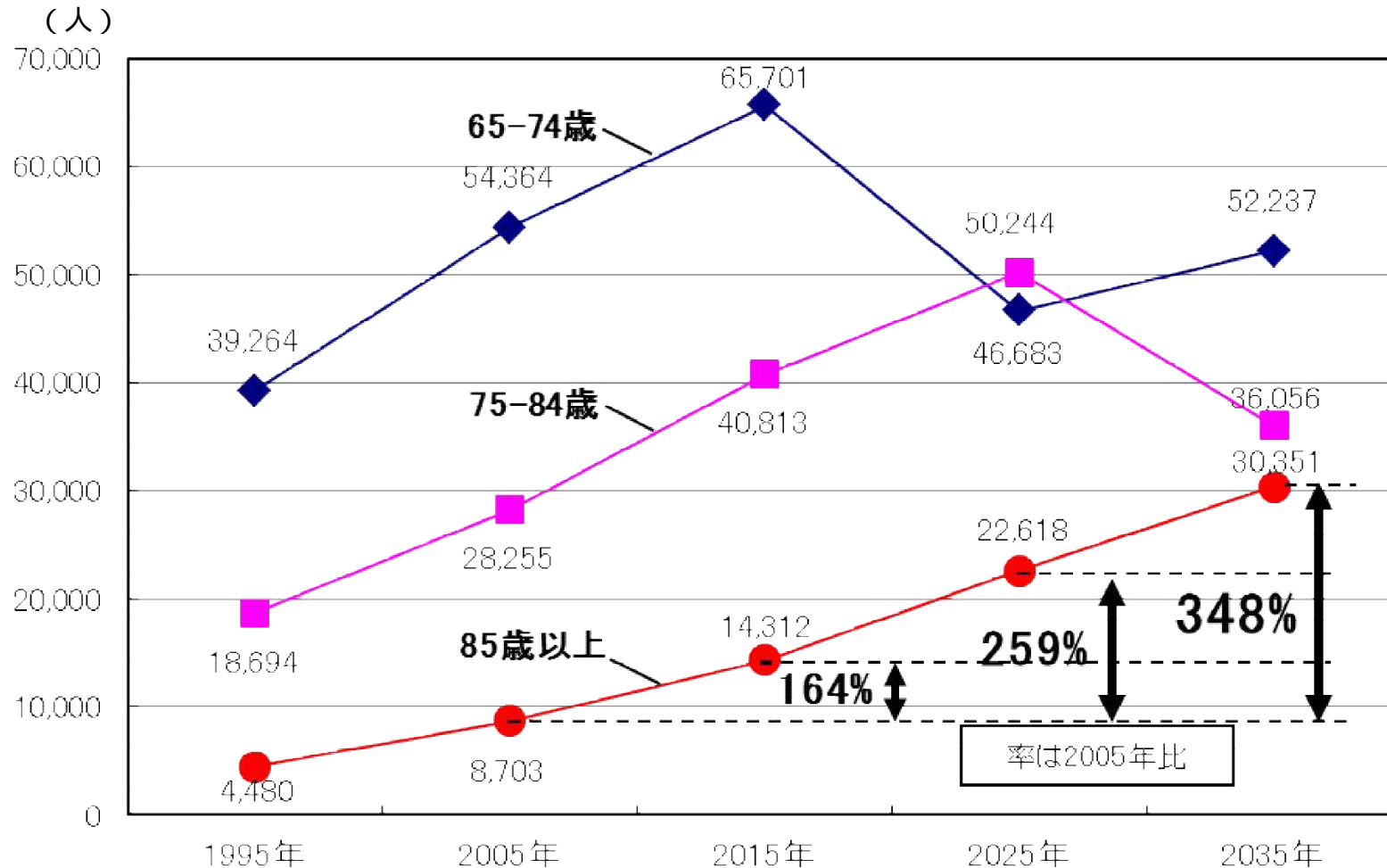
・「治安・マナーが悪いから」が最も多い。若年夫婦は「自然や空気などの環境」が、ファミリー世帯では「学校教育」がその次の理由にあがっている。

(母数に注意)



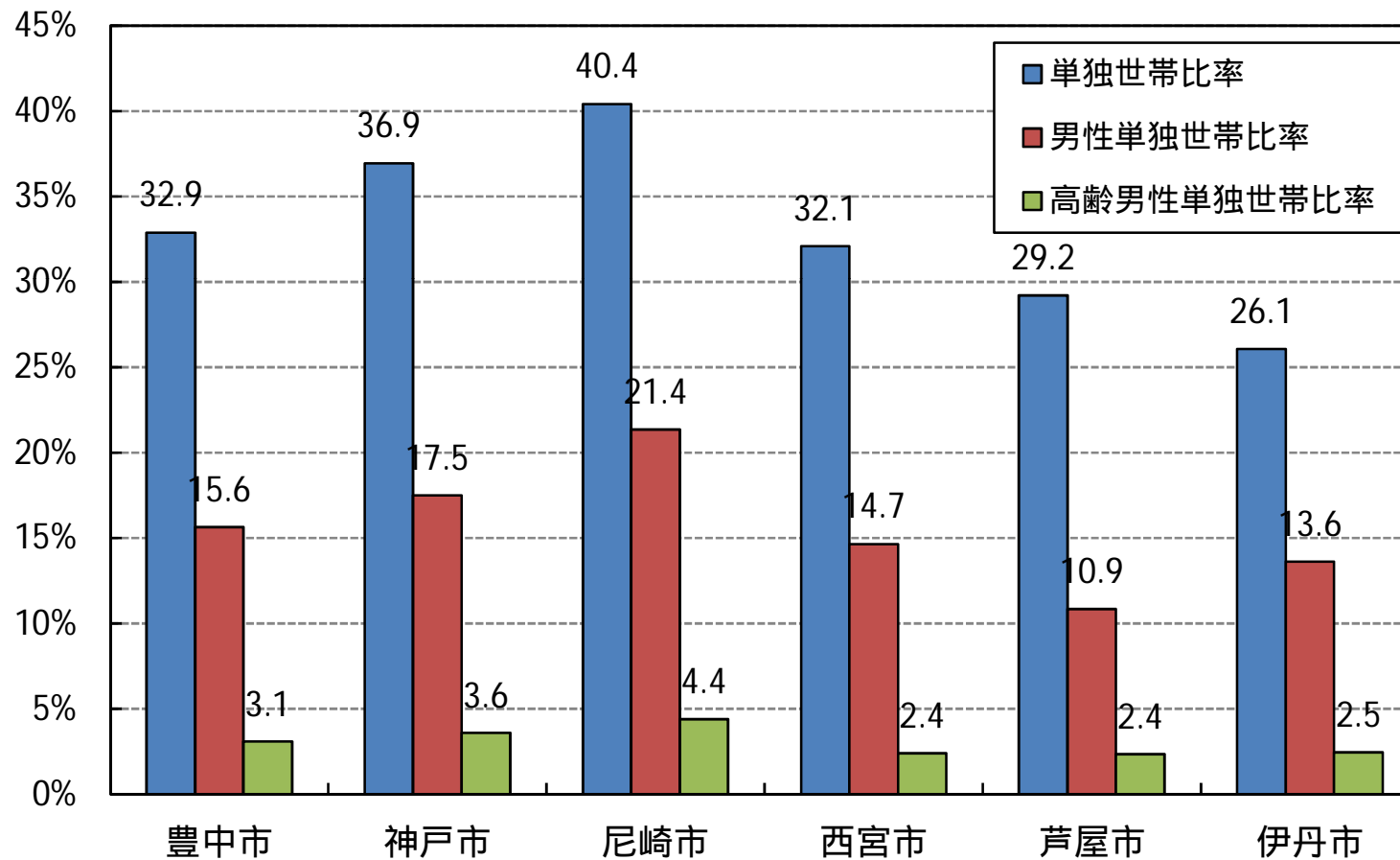
# 高齢化の進行

- ・ これまでの10年とこれからの10年を見ると高齢者の増え方が変わる。
- ・ 65～74歳は2015年がピーク。75～84歳は今後10年で1万人増。85歳以上人口は今後10年で1.5倍のスピードで増加する。



# 単独世帯比率

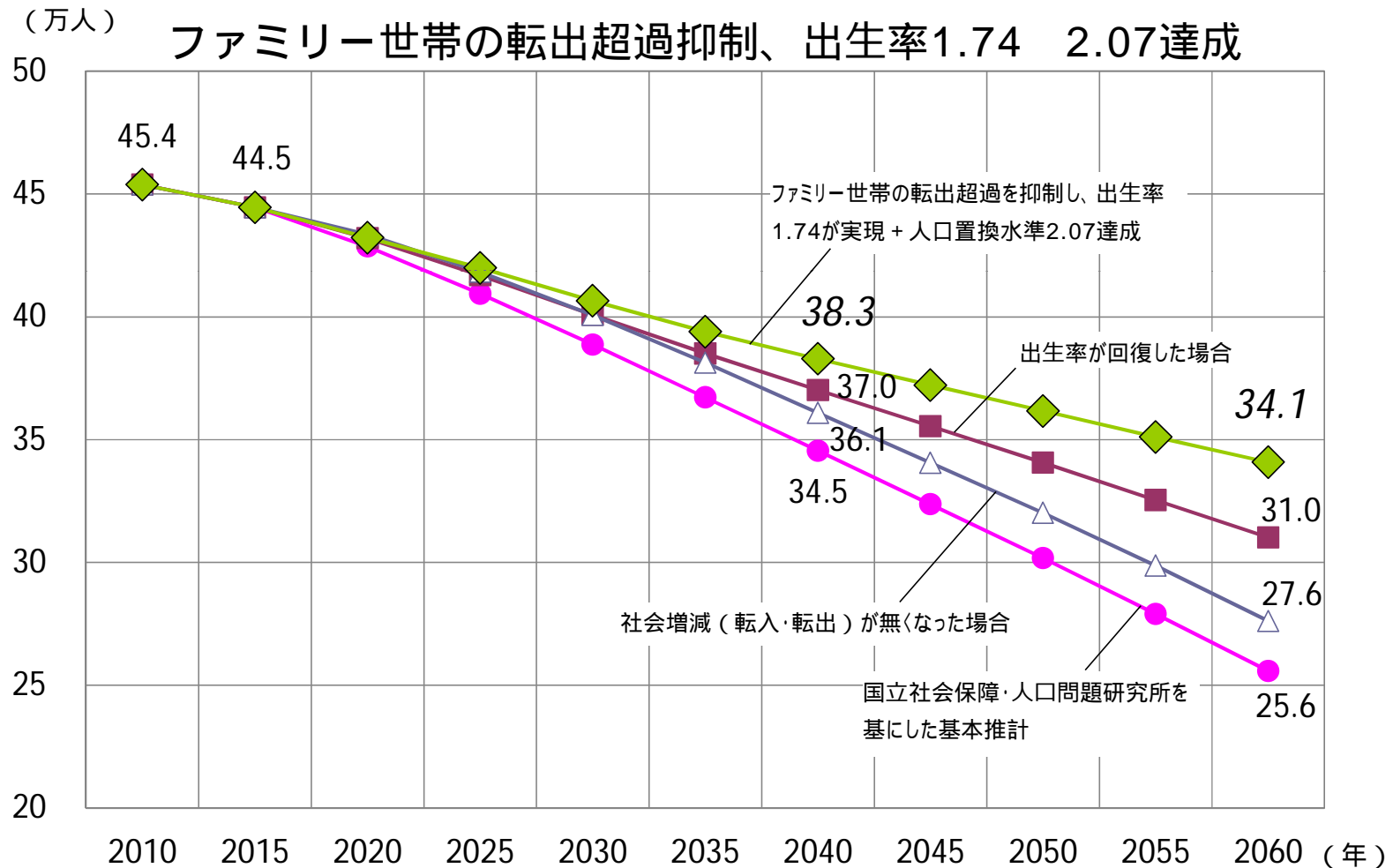
・ 尼崎市は近隣他都市と比較して、単独世帯（一人暮らしの世帯）の比率が高く、中でも男性の単独世帯の比率が高い。





# 尼崎市人口ビジョン（H22国調データを補正）

- ・本市の課題であるファミリー世帯の転出超過傾向を5年後に半減。
- ・平成42（2030）年に希望出生率1.74が実現し、平成52（2040）年に出生率が人口置換水準である2.07に回復するケースをめざして、総合戦略を策定する。



地域に  
おいて

# 市民一人ひとりが活躍できるまちに向けて 「育ち」と「学び」を応援します

